

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 富良野市におけるガ行鼻音の動向

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): nasal allophone of /g/ in Japanese, language change, consciousness of linguistic norms, implicational scale, generation after immigration, Furano city, Sapporo city 作成者: 相澤, 正夫, AIZAWA, Masao メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001155">https://doi.org/10.15084/00001155</a>

## 富良野市におけるカ行鼻音の動向

相 澤 正 夫

---

AIZAWA Masao : The Drift of the Nasal Allophone of / g / in Japanese  
toward disappearance in the Furano Dialect, Hokkaido

要旨：無作為に抽出された富良野市民 287 名について、ガ行鼻音がどのような傾向性をもって保持されているのかを明らかにし、そこに関与している諸要因を指摘する。次に、相澤（1994a）で報告した札幌市民 321 名の事例と同様に、この傾向性を説明するための原理として、含意尺度の考え方が有効であることを示す。さらに、年齢差と世代差の観点からガ行鼻音の衰退動向を分析し、年齢差が特に関与的であることを示す。

キーワード：ガ行鼻音，言語変化，言語規範意識，含意尺度，世代，富良野市，札幌市

Abstract: In Furano city, Hokkaido, 287 random-sampled inhabitants were interviewed to investigate how many of them used the nasal allophone of /g/ in Japanese, and in what conditions, linguistic and extra-linguistic, it actually appeared in their speech. In the previous study on Sapporo city, I proposed a hypothesis that the distribution of the velar nasal consonant in the speech of the velar nasal speakers can be best explained by implicational scaling of the linguistic factors involved (see Aizawa 1994a). In the present study I give further empirical evidence that supports the validity of this hypothesis. I also argue that the principal factor triggering the drift of the nasal allophone of /g/ in Japanese in the Furano dialect toward disappearance should be 'age', not 'generation after immigration'.

Key words: nasal allophone of /g/ in Japanese, language change, consciousness of linguistic norms, implicational scale, generation after immigration, Furano city, Sapporo city.

## 1. はじめに

ガ行鼻音は、東京をはじめ各地でその衰退・消失の傾向が指摘されている。相澤（1994a）では、これに札幌市民調査の事例を追加して、ガ行鼻音がどのような傾向性をもって保持されているのかを明らかにした。また、その傾向性を説明する一般的な原理として、含意尺度（implicational scale）が有効ではないかとの見通しを示した。

本稿では、まず、この札幌市民調査の事例研究をうけて、それに富良野市民調査の事例を追加する。そして、前稿で示したガ行鼻音保持の傾向性に関する分析結果が、富良野にも通用するような一般性をもつものなのかどうかを検証する。次に、富良野市民を年齢層別（10代～60代の6区分）、世代別（1世～3世の3区分）という二つの観点からグループ分けし、ガ行鼻音の保持状況が、年齢の推移と世代の交替という二つの要因の交錯によって、実際にどのような変化を見せているのか、その動向を明らかにする。

## 2. 分析対象とするデータの収集・作成

### 2.1. 富良野市

富良野市は、北海道中央部の上川支庁管内にある人口27,942人（1986年）の小地域社会である。19世紀末の1897年（明治30年）に入植が開始され、町村合併を経て1966年（昭和41年）に市制を施行、北海道で29番目の市となった。市の中心部の市街化地域とその周辺に広がる農村地域とからなるが、近年はスキー場の開発など観光地化が進んだこともあって、外部と接触する機会が大幅に増えてきている。

### 2.2. 富良野市民調査

調査は、1986年度に国立国語研究所員を中心とする研究グループによって、大規模な社会言語学的調査の一部として実施された。その結果、単純無作為抽出による富良野市民400名のうち、面接調査によって287名（男性134名、女性153名、生年1917～71年）から、今回のガ行鼻音の分析に必

要な情報の揃った音声録音資料を得ることができた。札幌市民調査の前年度に、それと同一の調査方法で実施されていたことから、同じ調査項目による両地域社会の比較が可能であること、また、インフォーマント数が十分に多く、その属性が詳しく調査されていることから、計量的な分析が十分におこなえることなど、分析に際して有利な条件が整っている。注1)

### 2.3. インフォーマントの属性構成

インフォーマントの属性構成を、男女別、年齢層別に人数で示すと表1のようになる。これを概観して、40代で女性の人数が男性の2倍になっている点が目立つことのほかは、特に大きな構成上の偏りはみられない。注2)

表1 インフォーマントの属性構成 (1986年現在)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
(生年	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	
71～67年	66～57年	56～47年	46～37年	36～27年	26～17年)		
男	12	14	36	19	32	21	134
女	14	23	30	38	25	23	153
計	26	37	66	57	57	44	287

また、いわゆる言語形成期（ここでは5歳から15歳までの期間）をどこで最も長く過したかという観点から、全体を①富良野市内（166名）、②北海道内（97名）、③その他（24名）の三群に分け、男女別、年齢層別に示したのが表2である。それぞれについて、「①／②／③」という順で人数を示す。

表2 言語形成期の居住地と属性構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	12/ 0/ 0	9/ 5/ 0	21/11/ 4	13/ 4/ 2	19/11/ 2	13/ 5/ 3	87/36/11
女	14/ 0/ 0	17/ 5/ 1	13/14/ 3	16/20/ 2	6/14/ 5	13/ 8/ 2	79/61/13
計	26/ 0/ 0	26/10/ 1	34/25/ 7	29/24/ 4	25/25/ 7	26/13/ 5	166/97/24

ここで①の富良野市内を「生え抜き」とみなすことにすると、インフォーマント全体に占める「富良野生え抜き」の割合は57.8%となる。富良野以外の「道内出身者」は33.8%、「その他出身者」は8.4%であるから、およそインフォーマントの2人に1人が「生え抜き」で、3人に1人が「道内出身者」という見当になる。注3)

年齢層ごとに「富良野生え抜き」「道内出身者」「その他出身者」の割合を示したのが、図1である。「生え抜き」の割合をみると、10代で100%、20代で70.3%と高率を示すのは予想されることとして、30代～60代においてもなお50%前後を占めており、全ての年齢層を通じての「生え抜き」の優勢傾向が確認できる。このことは、富良野市への移住、あるいは転入後の世代という観点から変化の動向をみるとき、「第2世」「第3世」のインフォーマントの人数が十分に確保されていることを意味し、計量的な分析の信頼度を高めてくれるものと思われる。

ちなみに、「富良野生え抜き」「道内出身者」「その他出身者」ごとに各年齢層の占める割合を示すと、図2のようになる。インフォーマント全体のほぼ2人に1人にあたる「生え抜き」では、10代の割合が26.6%とやや高めであるが、20代～60代の割合はいずれも10%台で、ほぼ均等な年齢層構成を示している。また、全体のほぼ3人に1人にあたる「道内出身者」では、

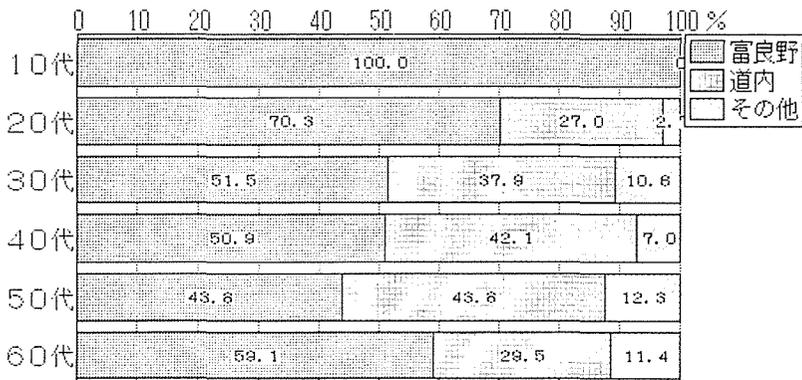


図1 年齢層別にみた言語形成期居住地

30代～50代の割合はいずれも20%台であるが、グラフ両端の20代と60代は10%台の半ばであり、10代はゼロである。

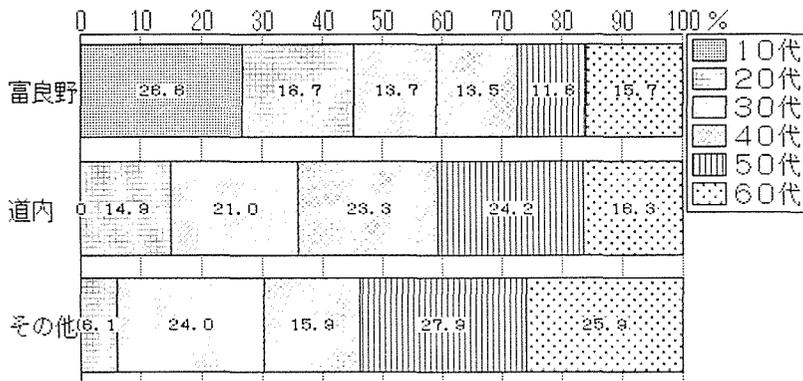


図2 言語形成期居住地別の年齢層構成

#### 2.4. ガ行鼻音項目の内容

分析対象とするデータは大きく2種類に分かれ、便宜的にそれぞれをA群、B群と呼ぶことにする。

A群は、いわば本来のガ行鼻音項目で、この調査で当初からガ行鼻音のための項目として用意されていたものである。項目数は「釘（クギ）」「中学（チューガク）」「道具（ドウグ）」の3語（項目）と少ない。A群の調査法は、一語ずつ漢字で書かれたカードを示し、「普通の調子で」と前置きしたうえで読んでもらうものである。場合によっては、例えば「金槌で頭をたたくもの」のように「なぞなぞ式」を援用したものもある。したがって、スタイルとしては、「単語単独の読みのスタイル」ということができよう。

B群は、本来はアクセント調査項目であったものを、ガ行鼻音項目として再利用したものである。アクセントの調査は、当該の単語が含まれる短文を示し、「普通の調子で」と前置きしたうえで読んでもらう方法をとった。例えば「畑」という語のアクセントは、「畑をたがやす」のような短文のかたちで調査したのであるが、これによって実は「たがやす」という語のガ行子

音も同時に調査し、それを録音していたことになる。B群のデータはこのようにして得られたので、「短文の読みのスタイル」ということができる。

B群の語（計8語、のべ26項目）をガ行子音の出現環境によって分類し、読み上げ短文を添えた形式で、表3に示す。

表3 B群の語のガ行子音の出現環境

B-1 自立語（7語9項目）

- ガ タガヤス（田をたがやす、畑をたがやす、鍛でたがやす）、  
ナガス（涙をながす）、コガタナ（小刀で切る）、  
スガタ（姿が見えない）、オルガン（オルガンをひく）
- グ オヨグ（鯨が泳ぐ）、ドングリ（どんぐりを拾う）

B-2 格助詞「ガ」（17項目）

- ア- セナカ-（背中が痛い）、スガタ-（姿が見えない）、クジラ-（鯨が泳ぐ）、クマ-（熊が出る）、デンジャー-（電車が来る）
- オ- イロ-（色が赤い、色が黒かった）、アシオト-（足音が聞こえる）、ココ-（ここが勝負の分かれ目だ）
- イ- ヒ-（日がのぼる）、ツツジ-（つつじが咲く）、カミナリ-（雷が落ちる）、アツマリ-（会費の集まりがわるい）
- ウ- カラス-（鳥が鳴く）
- ン- スズラン-（すずらんが咲く）、サトーサン-（佐藤さんが来た）、ニエン-（2円がおつりです）

## 2.5. 録音資料の聴き取り

A群のガ行鼻音については、すでに尾崎（1991）で報告がなされている。その際、データ作成のために録音テープの聴き取りを担当したのは尾崎氏であった。しかし、本稿では、B群と対比させるうえで聴き取りの「耳」は同一であるべきだと判断し、新たに筆者が聴き取りをおこなって、その結果をデータとすることにした。

結果として、尾崎氏の聴き取りとの食い違いはわずかであったが、筆者の方がやや鼻音として聴き取りやすい傾向が認められた。これには、尾崎氏が鼻音地域（長野県上田市）の出身、筆者が非鼻音地域（新潟県柏崎市）の出身ということが影響した可能性がある。<sup>注4)</sup>

A群、B群ともに、一口にガ行鼻音といっても実際の発音はさまざまであり、さらに録音状態の良し悪しも加わって、鼻音と確信のもてるものもあれば、あまり自信のもてないものもある。もとのデータでは、その区別を残すために、鼻音と非鼻音とに強いて二分せず、①確かに鼻音、②どちらかといえば鼻音、③どちらかといえば非鼻音、④確かに非鼻音のように4段階で記録してある。しかし、本稿では、この問題には深く立ち入らず、①と②を鼻音、③と④を非鼻音として処理することにする。

なお、聴き取りを終えた時点での感想を述べれば、相澤（1994a）でおこなった札幌市民調査の録音資料の聴き取りに比べて、今回のほうが微妙で判定の難しいものが多かったという印象である。<sup>注5)</sup>

### 3. ガ行鼻音の出現状況とその分析

#### 3.1. 分析の方針

尾崎（1991）の報告によれば、札幌市と同様に富良野市でも、若年層ほど鼻音の割合が減少し、ガ行鼻音が衰退・消滅に向かっていることは明らかである。そして、その変化の動きは、富良野市のほうが札幌市より先行していることもほぼ確実のようである。<sup>注6)</sup>

以下では、この報告をうけて、相澤（1994a）から札幌市のグラフを適宜引用しながら、両地域社会のガ行鼻音の出現状況を対比的に捉え分析を進めることにしたい。

#### 3.2. A群の結果と分析

まず、A群の3語について、それぞれインフォーマントの「全体」と「生え抜き」に分けてガ行鼻音の保持率を示したのが、図3-aである。それに対応する札幌市のグラフは、図3-bとして右側に示した。

ここでA群3語の平均を出してみると、富良野市が「全体」16.7%、「生え抜き」8.2%、札幌市が「全体」32.1%、「生え抜き」18.2%となる。全体として、札幌市のほうが富良野市よりガ行鼻音の保持率が高いこと、両地域

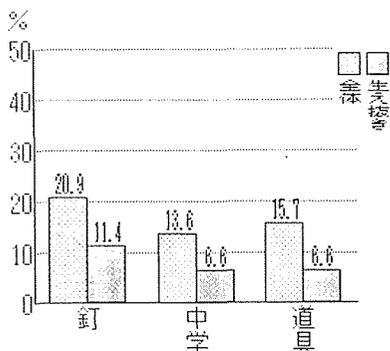


図3-a A群 富良野

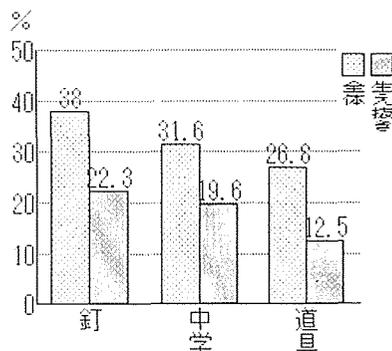


図3-b A群 札幌

とも「全体」が「生え抜き」を上まわっていることが確認できる。

札幌市では「釘」「中学」「道具」の順にガ行鼻音の保持率がほぼ段階的に下がっていくが、このことについて相澤（1994a）では、3語の語種と音韻環境の違いに注目して、次のような説明を暫定的に示しておいた。すなわち、保持率の高さで言うと、

- (1) 語種：和語>漢語
- (2) ガ行拍の母音：広母音>狭母音

のような順になるという点と、(1)語種と(2)ガ行拍の母音とでは、語種のほうが保持率の高さにより関与的であるという点である。勿論、これは、あくまでも少数例からの見通しにすぎないことを断った上での説明である。

一方、富良野市についてみると、保持率そのものが一段と低いレベルに達していることもあって、札幌市のような観点から3語の違いについて説明するのが躊躇される。かろうじて、(1)語種について「和語>漢語」という傾向が指摘できる程度であろうか。

### 3.3. B群の結果と分析

2.4.の表3に掲げたB-1（自立語）とB-2（格助詞「が」）の各語（項目）を、インフォーマント「全体」のガ行鼻音保持率の高い順に、「生え抜き」と対比させながら配列したのが、図4-aと図5-aである。それに対応する





札幌市のグラフは、それぞれ図4-b、図5-bとして右ページに示した。

富良野市をみると、B-1の平均は「全体」28.6%、「生え抜き」18.8%、B-2の平均は、「全体」35.2%、「生え抜き」24.6%である。二つをまとめたB群の平均は、「全体」32.9%、「生え抜き」22.6%で、すでにみたA群よりもかなり高い保持率を示している。ちなみに、札幌市の場合は、B-1の平均が「全体」44.5%、「生え抜き」28.9%、B-2の平均が、「全体」51.7%、「生え抜き」34.1%であり、二つをまとめたB群の平均は「全体」49.2%、「生え抜き」32.3%であった。B-1群、B-2群、B群のいずれをとっても、札幌市の保持率のほうが富良野市より、「全体」では約15%ほど、「生え抜き」では約10%ほど上まわっていることが分かる。なお、この較差は、そのまま前節3.2.でみたA群の場合にも当てはまり、両地域におけるガ行鼻音衰退の進行度の違いを示す、一つの数値的な目安とみなすことができる。

札幌市について、相澤(1994a)でも指摘したように、A群とB群とにみられる較差には、個人のレベルにおける発話のスタイル差が関与している可能性がある。2.4.で述べた調査法の違いが、インフォーマントによっては回答結果に影響することが十分に考えられるからである。しかし、集団全体としてみれば、A群の「クギ」とB群の「オヨグ」(いずれも和語でガ行拍が狭母音)とが実際にかかなり近い保持率を示すことから(「全体」/「生え抜き」の形式で示すと、「釘」が20.9%/11.4%、「泳ぐ」が18.5%/10.2%)、ここではスタイル差をとりあえず無視して、B群とA群を一緒にして分析を試みることにする。なお、札幌市についても、これと同様の手続きで分析をおこなっている。

図4-a、図5-aをみると、B群の中でも、B-2格助詞「が」の保持率が平均して高いのが目につく。中でも特に、前接拍に鼻音を含みもつ「佐藤サン」「クマ」「2エン」「スズラン」が40%を超え、上位に並んでいる。前接拍が撥音(=軟口蓋鼻音)の場合だけでなく、「kuma」のように母音を挟んで先行する鼻子音が保持率の高さに関与的である点も注目される。これは、B-1の「nagasu(流す)」にも言えることであり、両者が非常に近い保持率

を示しているのは示唆的である。一方、前接拍に鼻音を含んでいながら「ドングリ」の保持率が低めなのは、ガ行拍が狭母音であることが影響していると考えられる（「オヨグ」の保持率の低さにも注目）。

以上、富良野市の概観から、語種の面では、和語の保持率が漢語・外来語より高いとは言えそうであるが、漢語と外来語については、語例が少ないので何とも言えない。音韻環境の面では、前接拍の鼻音性がガ行鼻音保持を強く支えていることが確認できる。ガ行拍の母音の広狭については、広母音のほうが狭母音よりもガ行鼻音保持に貢献しているようにみえるが、狭母音の語例が少なく（「泳ぐ」「どんぐり」「釘」「道具」の4語のみ）、語彙的な性質もまちまちなので、やはり断定的なことは言いにくい。ただ、札幌市のグラフと比較すれば明らかなように、以上のような傾向が、両地域に共通して指摘できる点は、十分に注意されてよいであろう。

### 3.4. A群とB群との対比

前節3.3.では、A群とB群とを一緒に扱い（スタイル差は無視）、両者に保持率の較差をもたらした原因を、もっぱら語種や音韻環境などの言語内的要因に求めてみた。しかし、残念ながら項目数が十分とは言えないため、簡単な見通しを得るにとどまった。

ここでは言語外的要因として年齢差に注目し、スタイル差も考慮に入れることにする。富良野市についてA群とB群とを対比させ、年齢層別に保持率を示したのが、図6-a（全体）、図7-a（生え抜き）である。それに対応する札幌市のグラフは、それぞれ図6-b、図7-bとして右ページに示した。

相澤（1994a）では、札幌市のグラフについて、「大きく捉えれば、ほぼ中間の年齢層・保持率のあたりで、A群とB群との差が大きくなっているようにみえる。A群とB群との差が大きいということは、それだけガ行鼻音の保持に関して、スタイル差も含め、多様な振舞いをみせる個人が含まれていることを予想させる」と書いた。これをうけて、まず、富良野市の「全体」のグラフ（図6-a）をみると、両地域の変化のパターンは非常によく似て

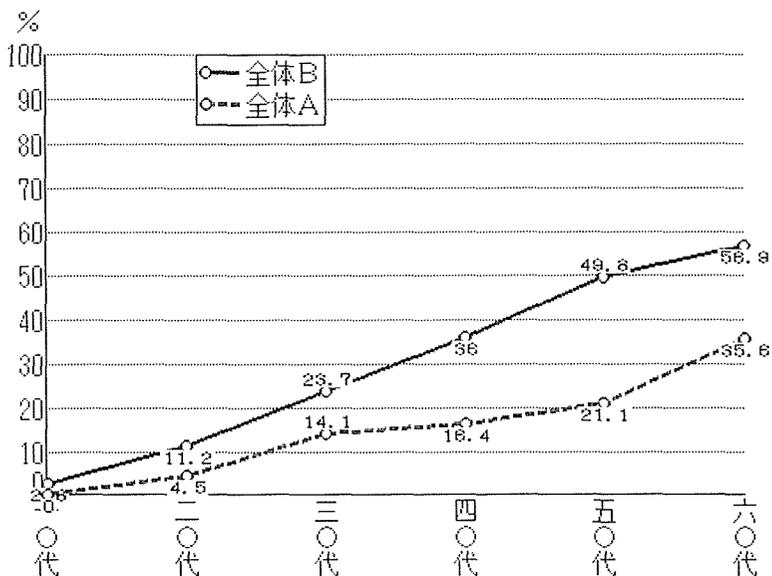


図6-a A群とB群の年齢層別対比 富良野（全体）

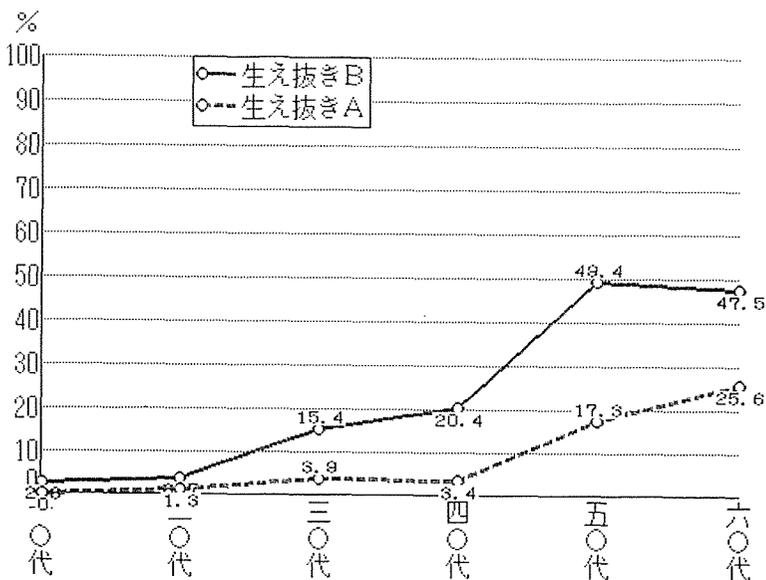


図7-a A群とB群の年齢層別対比 富良野（生え抜き）

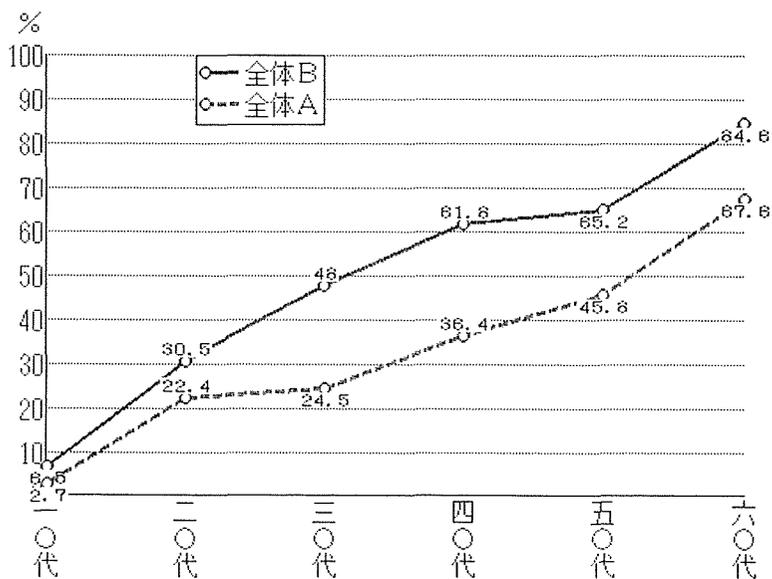


図6-b A群とB群の年齢層別対比 札幌（全体）

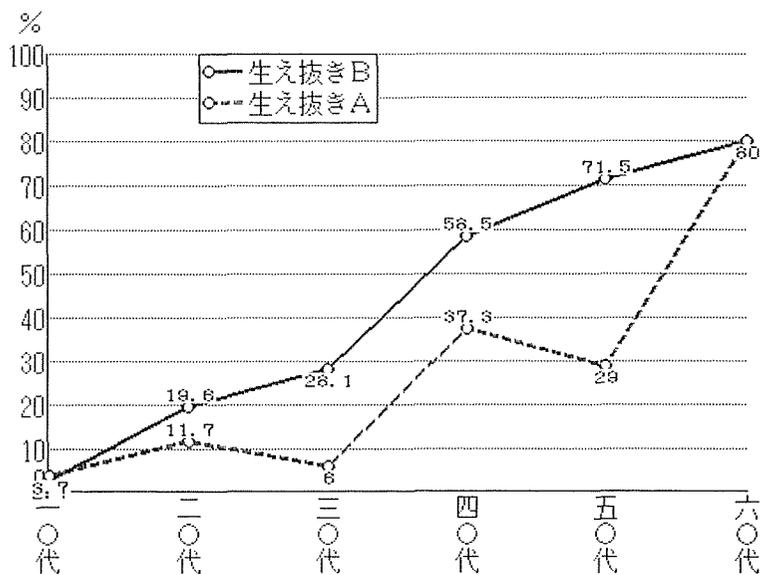


図7-b A群とB群の年齢層別対比 札幌（生え抜き）

いるものの、A群とB群との差が拡大している年齢層・保持率の位置が、札幌市の「全体」(図6-b)より年代でおおよそ二つ分だけ高齢層の方に移っていることに気付く。すなわち、富良野市の60代、50代の状態が、それぞれ札幌市の40代、30代の状態にほぼ相当することから、ガ行鼻音の衰退においては、富良野市のほうが札幌市より、約20年分だけ先行していると推定されるのである。「生え抜き」のグラフからも、「全体」ほどきれいではないが、やはり同様の傾向を認めることができるだろう。但し、札幌市でも10代になると急速に衰退が進行して消失の一手手前の状態に達しており、最も若い年齢層ではすでに富良野市に追いついていると言えよう。

### 3.5. ガ行子音に対する規範意識の問題

このように、両地域とも、ガ行鼻音が衰退してゆく中間段階で、A群とB群との保持率の較差が、一たび拡大していることは確かである。これには、すでに3.2. でみたような言語内の要因が関与していることは間違いないが、その一方で、発話の際のスタイル差といった要因も無視することができないと思われる。すなわち、2.4. で述べたような、

A群：単語単独の読みのスタイル

B群：短文の読みのスタイル

という発話の仕方の違いの影響である。相澤(1994a)でも指摘したように、話者の意識が発話内容に向かいやすいか、それとも発話形式に向かいやすいかという「意識の方向性」の観点からすると、A群のほうがB群よりも発話形式に十分に注意を集中する余裕があるので、コントロールされた発音になりやすいと推測することができる。したがって、この両地域で、仮りにガ行鼻音が正しい発音であるとされ、それに向かおうとする規範意識が強くはたらいているとするならば、A群のほうがB群よりも高い保持率を示すことが期待されることになる。

しかし、すでに見てきたことから明らかのように、実態はむしろそれとは反対の傾向を示している。データの制約もあり言語内の要因の関与を排除で

きないので断定はできないものの、今回の調査結果からは、「富良野市と札幌市では、ガ行鼻音に対する規範意識がはたらいっていない」と結論づけるのが妥当であると考えられる。このことは、実際に面接調査をおこなったときの印象とも合致するところがある。ガ行子音を鼻音で発音することと非鼻音で発音することの正否について直接質問してはいないが、多くのインフォーマントが、A群すなわち単語単独の読みに際して、つとめて明瞭でしっかりした発音をめざしているようにみえたことは確かである。<sup>注7)</sup>

以上のことから、両地域におけるガ行子音の発音は、いわゆる標準日本語で正しい（あるいは、しばしば美しい）とされる鼻音ではなく、むしろ反対に、聞こえの「明瞭さ」にまさる非鼻音の方を志向する規範意識に支えられている、と捉えることができよう。このことは、特に北海道という土地柄を考えると、十分に首肯できることのように思われる。<sup>注8)</sup>

## 4. ガ行鼻音保持の傾向性

### 4.1. 含意尺度による説明

相澤（1994a）では、札幌市におけるガ行鼻音保持の傾向性について、含意尺度の考え方によって説明できるのではないかとの見通しを示した。すなわち、例えば、語中にガ行子音を含むA、B、C、D、Eという五つの語があって、ある集団全体におけるガ行鼻音の保持率が $A > B > C > D > E$ の順であったとき、それを個人のレベルで次のような保持の仕方をしていることの反映（あるいは集積）とみる、ということであった。

ある個人が、例えばEで鼻音をもっていれば、それはD、C、B、Aでも鼻音をもっていることを意味する。また、Dで鼻音をもっていれば、それはC、B、Aでも鼻音をもっていることを意味する。以下同様に、下位での保持が、上位での保持を含意する。

これはまた、逆の方向から捉えれば、

ある個人が、たとえAで鼻音をもっていても、それは必ずしもB、C、D、Eで鼻音をもっていることを意味しない。また、Bで鼻音をもつて

いても、それは必ずしもC, D, Eで鼻音をもっていることを意味しない。以下同様にして、上位での保持は、下位での保持を含意しない。ということでもあった。ここでは「含意尺度」を、このような含意の序列(E>D>C>B>A)を目盛った物差しというほどの意味で用いている。これによって、ガ行鼻音保持の傾向性がある程度うまく説明できるだろうとの見通しのもとに、札幌市民調査のデータに実際に適用してみたわけである。

#### 4.2. 富良野市と札幌市との対比

前節4.1.で述べた含意尺度にもとづくと思われる傾向性を、具体的にどのように表示すべきかについては工夫が必要であるが、ここでは相澤(1994a)の札幌市にならって富良野市のグラフを作成し、両地域を対比させてその異同をみることにしたい。

図8-aは、B-1(自立語)9項目、図9-aは、B-2(格助詞「が」)17項目のグラフである。それに対応する札幌市のグラフは、それぞれ図8-b、図9-bとして右ページに示した。図8、図9とも、個々のグラフの左側は、すでに3.3.でみたガ行鼻音の保持率そのものを示している。右側はその項目が鼻音である人のグループについてみた場合、B群26項目全体ではどれくらいを鼻音で発音しているか、その数値を26点満点で示したものである。

このようにして作成した札幌市のグラフについて、相澤(1994a)では次のように書いている。結論を先取りして言うと、この説明は数値等を入れ替えるだけで、実はそのまま富良野市にも通用する記述になっている。

例えば、図8-bで、「オルガン」の「ガ」を鼻音で発音する人は、24.83という最高得点を示しているが、このことは、いわば「オルガン」ほどの語で鼻音をもつ人は、それ以外の語では相当に高い確率で鼻音を保持していることを示唆していると解釈することができる。同様の見方で全体を概観してみると、保持率と得点とが、ほぼ負の相関関係にあることが見て取れる。すなわち、これが「含意尺度」の一つの現われに他ならない。図8、図9の凡例に、あえて「含意度」と書いたのはこのような理由による。

勿論、札幌市に較べて富良野市では、全体的な保持率が低い分だけ含意度の得点も低くなる傾向にあるが、保持率と得点とが示す負の相関関係のありかたは、驚くほどよく似ていると言わなければならない。

以上の概観から、札幌市について指摘したガ行鼻音保持の傾向性とその含意尺度による説明は、富良野市の場合にも当てはまり、ほぼその妥当性・有効性が確認されたと言えるだろう。<sup>注9)</sup>

## 5. 年齢層・世代からみたガ行鼻音の実態

### 5.1. インフォーマントの年齢層と世代

2.3.のインフォーマントの属性構成でも触れたように、富良野市ではいわゆる「生え抜き」の割合が、全ての年齢層を通じて相当に高い(図1参照)。このことは、市内へ移住(あるいは転入)した後の世代である「第2世」と「第3世」の人数が十分に確保されていることを意味する。本稿では、この利点を生かして、年齢の推移と世代の交替という二つの要因に注目しながら、ガ行鼻音の保持状況がどのような変動をみせるのか、その実態を明らかにしたい。

まず、ここでは便宜的に「世代」を次のように定義しておく。(世代をどのように定義するかということ自体が問題になりうるが、ここでは深入りしないことにする。)それぞれの右側の数字は、インフォーマント全体に占める割合を示し、括弧内がその実数である。

第3世：父または母が「生え抜き」	24.0% (69人)
第2世：父も母も「よそもの」	29.3% (84人)
第1世：本人が「よそもの」	42.2% (121人)
不明：父母の情報が欠落	4.5% (13人)

このような世代の3区分にもとづいて、男女別、年齢層別に所属人数を示したのが、表4である。それぞれ、「第3世/第2世/第1世」の形で実数を示してある。

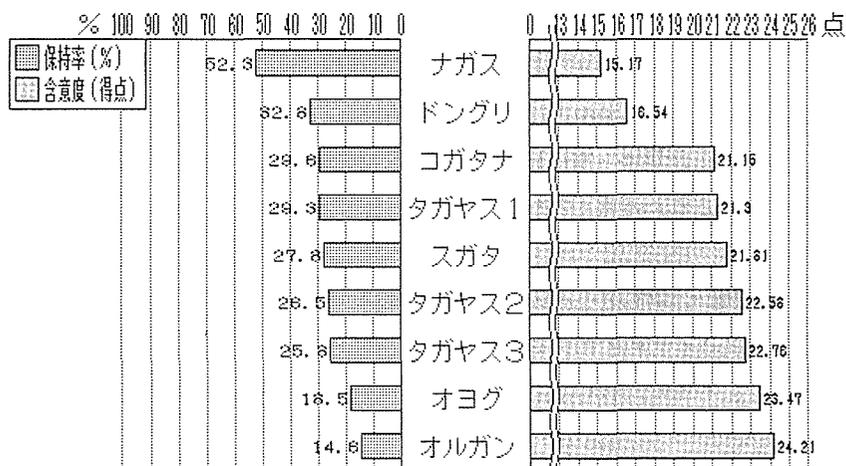


図 8-a B-1 群の保持率と含意度 富良野

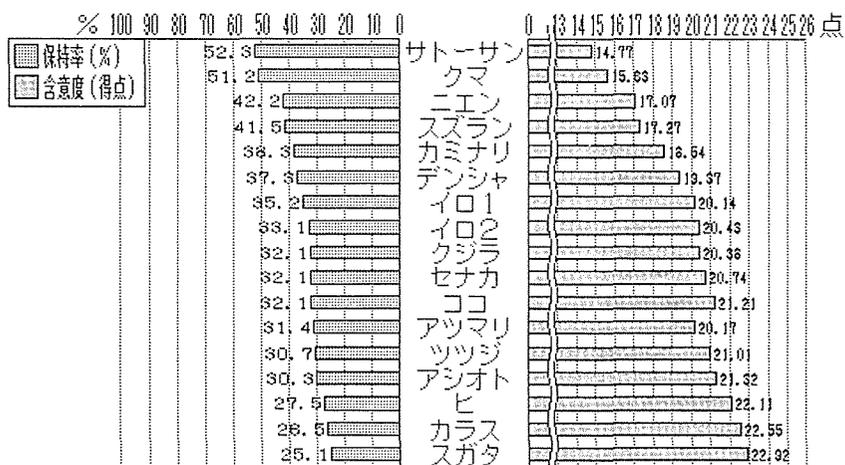


図 9-a B-2 群の保持率と含意度 富良野

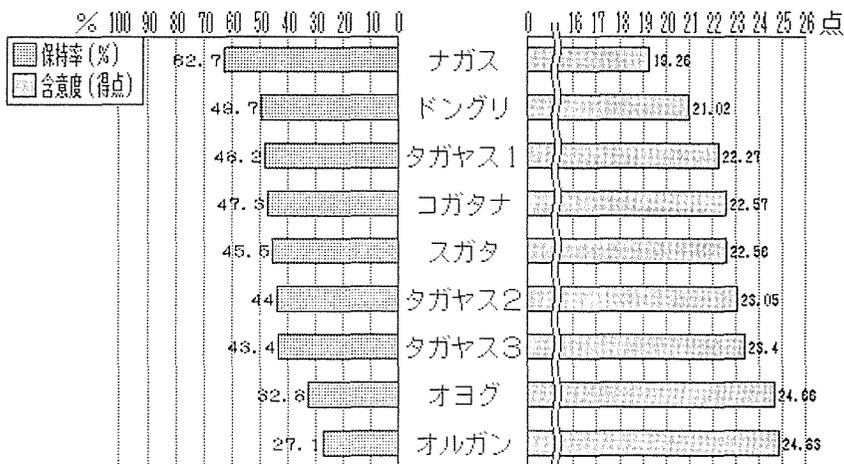


図8-b B-1群の保持率と含意度 札幌

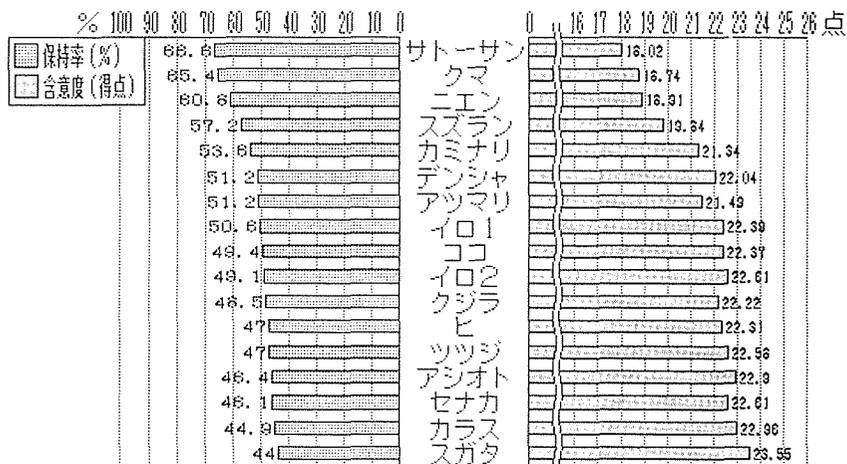


図9-b B-2群の保持率と含意度 札幌

表4 世代と属性構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	6/ 4/ 0	7/ 2/ 5	11/10/15	6/ 5/ 6	5/14/13	1/11/ 8	36/46/ 47
女	9/ 2/ 0	11/ 5/ 6	6/ 5/17	5/ 9/22	2/ 4/19	0/13/10	33/38/ 74
計	15/ 6/ 0	18/ 7/11	17/15/32	11/14/28	7/18/32	1/24/18	69/84/121

## 5.2. 世代別にみた保持率の年齢層推移

まず、年齢を無視して、各世代ごとにB群の保持率の平均を出してみると、「第1世」が47.0%、「第2世」が31.2%、「第3世」が15.2%となる。この数値からは、世代が進むにつれて段階的に保持率が減少してゆくかのようにみえるが、実はそうではないことが、図10によって明らかになる。

図10は、前節5.1.で区分した三つの世代それぞれについて、年齢層別にB群の保持率を示したものである。なお、「第1世・10代」は該当者なし、また「第3世・60代」はわずか1名ということで除外したため、その部分

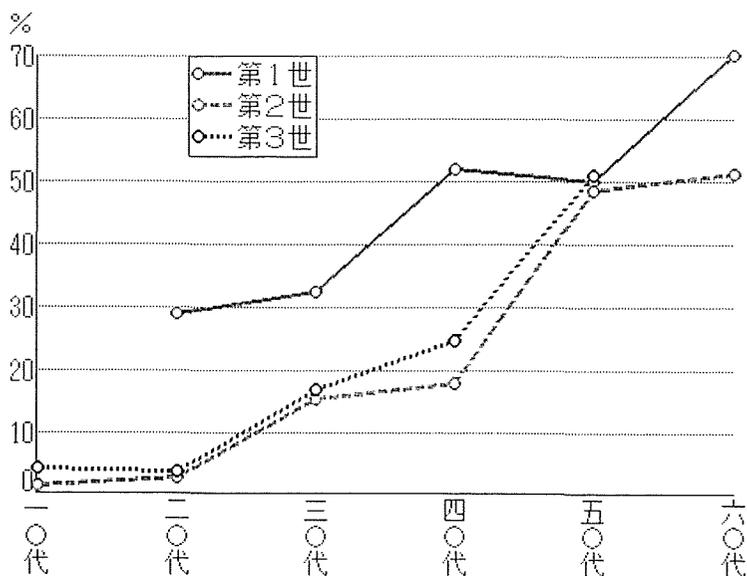


図10 世代別にみた保持率の年齢層推移

はグラフが切れている。

50代以下をみれば分かるように、「第2世」と「第3世」は、ほぼ重なるようにカーブを描いて衰退している。また、20代～40代では、「第1世」と「第2世・第3世」との間はかなり大きな較差が認められる。これらの事実から、中・若年層では、「第1世」すなわち「よそのもの」が保持率の引き上げに貢献しているらしいこと、また、いずれも「生え抜き」である「第2世」と「第3世」との間にはほとんど差が認められないことが分かる。したがって、ここで重要な差をもたらしているのは、世代ではなくむしろ「生え抜き」と「よそのもの」の違いということになる。このことは、言い換えれば、「同じ時代に同じ地域で言語形成期を過ごしたこと」が、強く言語的特徴（ここではガ行鼻音の保持）の決定要因としてはたらいっていることを物語るものと言えよう。

ちなみに、世代交替の間隔を約30年として、図10で「60代・第1世」の子を「30代・第2世」、「50代・第1世」の子を「20代・第2世」とみなすことにするならば、この時期における世代間の伝承で、ガ行鼻音の保持率は約50%分の大幅な低下をみたことになる。衰退・消失へと向かう変化がいかに激しかったかは、ここからも推察されよう。

## 6. おわりに

本稿では、相澤（1994a）でおこなった札幌市の事例研究をほぼそのまま踏襲して、新たに富良野市のガ行鼻音データを作成し、その実態を分析・報告した。

両地域を対比させた結果、ガ行鼻音の衰退は、富良野市のほうが札幌市より先行しているが、変化のプロセス自体はきわめてよく似ていることが確認された。また、ガ行鼻音保持の傾向性も、札幌市と同様に含意尺度の考え方によって説明できるだろうとの見通しが立てられた。

年齢差と世代差という二つの観点からガ行鼻音の動向を捉えた結果、富良野市では「よそのもの」か「生え抜き」かという区別がまず重要で、「生え抜

き」であれば特に世代差は認められず、年齢差のみが関与的であることが明らかになった。要するに、「言語形成期をいつの時代、どこの地域で過ごしたか」が決め手であったということになる。

札幌市の事例研究に引き続き、本稿でも、既存の調査資料を別の角度から再利用することを試みた。再利用ゆえの限界があることは勿論であるが、新たな調査を企画・実施するためにも、その準備的研究としてこのような試みは続けられるべきものと考えている。

#### 注

- 1) 調査は、1986年度文部省科学研究費補助金（総合研究（A））の交付を受けて、研究課題名「北海道における共通語化および言語生活の実態」（代表者 江川清）として実施された。個別面接調査に参加した調査者は、江川清、野元菊雄、杉戸清樹、米田正人、佐藤亮一、沢木幹栄、小林隆、小野米一、菅泰雄、南芳公、吉見孝夫、徳川宗賢、真田信治、高田誠、志部昭平、日向茂男、鈴木敏昭、菱沼透、村山昌俊、尾崎喜光、中島孝幸、堤真木、松田謙次郎、永田高志、相澤正夫の25名である。
- 2) 富良野市民調査は、個別面接調査と郵送留置アンケート調査の併用方式で実施され、有効回答者の総数は299名（74.8%）であった。面接調査は原則としてその一部始終が録音されているが、ここでは計量的な処理をする都合上、ガ行鼻音の分析に必要な情報がもれなく揃っていることを条件にしたため、調査もれや読み誤りなどのあった12名分を除いて、残った287名を分析対象としている。
- 3) 札幌市民調査では、およそインフォーマントの3人に1人が「札幌生え抜き」で、2人に1人が「道内出身者」であった。相澤（1994a）を参照。
- 4) 尾崎氏と筆者の聴き取り上の違いは、延べ861語のうち13語にみられた。すべて尾崎氏が非鼻音、筆者が鼻音として聴いたものである。
- 5) 聴き取りの結果は、次のように記号化してパソコンに入力してある。実際の様子には、本稿の末尾の別表を参照されたい。

●＝確かに鼻音。

▲＝どちらかといえば鼻音。

△＝どちらかといえば非鼻音。

○＝確かに非鼻音。

札幌市民調査（332名）と富良野市民調査（287名）について、B群（26項目）のこれらの記号の出現度数をみると、次のようになる。

	●	▲	△	○	全体
札幌	4,058	190	131	4,253	8,632
富良野	1,978	478	350	4,656	7,462

「どちらかといえば」付きの「▲, △」の割合は、札幌が 3.7%、富良野が 11.1%と、富良野のほうがかなり多い。

- 6) 札幌市民調査のインフォーマントには、「上川支庁出身者」が 23 名含まれていたが、その B 群のガ行鼻音保持率は平均で 29.2%と、支庁別では道内で最低であった。ここからも、富良野市におけるガ行鼻音保持率の低さを、ある程度予想することができよう。詳細は、相澤 (1994b) を参照。
- 7) 調査員の一人であった杉戸清樹氏の指摘による。筆者も調査員として同様の印象をうけた。
- 8) 北海道における標準語意識が、必ずしも「東京ことば」を志向していないことについては、相澤 (1990) を参照。
- 9) 含意尺度は、カテゴリー間の序列について言うのが普通であるとの指摘を、前川喜久雄氏よりうけた。本稿のように個々の語を直接問題にすると、確かにそれぞれの個別的 (idiosyncratic) な特徴を排除できないうらみがあって不備ではあるが、カテゴリー間の序列はそれなりに反映されているものと考えておく。

#### 参考文献 (著者名の五十音順)

- 相澤正夫 (1990) 「北海道における共通語使用意識－富良野・札幌言語調査から－」『研究報告集 11』(国立国語研究所報告 101)
- (1994a) 「ガ行鼻音保持の傾向性と含意尺度－札幌市民調査の事例から－」『研究報告集 15』(国立国語研究所報告 107)
- (1994b) 「札幌市民のガ行鼻音保持をめぐる」『ことばの世界』(北海道方言研究会 20 周年記念論文集・叢書第 5 巻)
- 尾崎喜光 (1991) 「発音・アクセントをめぐる」『北海道における共通語化』(平成 2 年度国立国語研究所研究発表会予稿集)

#### [付 記]

本稿は、国立国語研究所研究部会議 (1994 年 10 月 12 日) でおこなった同じ題目の研究発表にもとづいている。同僚諸氏の指摘により、内容を改めたところも多い。記して感謝の意を表する。また、末尾ながら富良野市民調査にご協力くださった方々に、改めてお礼を申し上げる。

## 別 表

以下に掲げる別表（左右見開き）の見方は、次の通りである。

(1) 左ページは、個々のインフォーマントごとに、情報を左から順に次のように配列する。

(a) 通し番号。

(b) インフォーマントの生年。西暦の下2桁（(19)17～71年）で表示。

(c) インフォーマントの性別。

(d) B-1群の項目（9項目）。配列は、287名全体の鼻音の出現率の高い順。

ア = 「ナガス」、イ = 「ドングリ」、ウ = 「コガタナ」、  
エ = 「タガヤス1」、オ = 「スガタ」、カ = 「タガヤス2」、  
キ = 「タガヤス3」、ク = 「オヨグ」、ケ = 「オルガン」。

(e) B-1群の鼻音の合計（0～9点）。

(f) B-2群（格助詞「が」）の項目（17項目）。配列は、287名全体の鼻音の出現率の高い順。

コ = 「サトーサン」、サ = 「クマ」、シ = 「ニエン」、  
ス = 「スズラン」、セ = 「カミナリ」、ソ = 「デンシャ」、  
タ = 「イロ1」、チ = 「イロ2」、ツ = 「クジラ」、  
テ = 「セナカ」、ト = 「ココ」、ナ = 「アツマリ」。

(2) 右ページは、左ページに対応して、情報を左から順に次のように配列する。

(g) 通し番号。（=a）

(h) B-2群の項目（17項目）のつづき。

ニ = 「ツツジ」、ヌ = 「アシオト」、ネ = 「ヒ」、  
ノ = 「カラス」、ハ = 「スガタ」。

(i) B-2群の鼻音の合計（0～17点）。

(j) B群全体（26項目）の鼻音の合計点。（=(e)+(i), 0～26点）

(k) A群の項目（3項目）。配列は次の通り。

釘 = 「クギ」、学 = 「チューガク」、具 = 「ドーグ」。

(l) A群の鼻音の合計（0～3点）。

(m) インフォーマントの出生地。地名の表示は、次のように富良野市から遠くなるほど地域区分を粗くしてある。

(イ) 富良野市内は「富良野」と表示。

(ロ) 富良野市に近接する町村は、次のように表示。

「中富良野、上富良野、美瑛、南富良野（占冠を含む）」

(ハ) 札幌市は特に「札幌」と表示。

(ニ) 以上の他の北海道内は「支庁名」で表示。但し、細部不明の場合は「北海道」。

(ホ) 「青森、秋田、岩手、山形、宮城、福島、新潟」は県名で表示。

(v) 上記以外の地域区分は次の通り。

「北関東」＝栃木，茨城。

「南関東」＝群馬，埼玉，東京，千葉，神奈川。

「北陸」＝富山，石川，福井。

「中部」＝山梨，長野，岐阜，静岡，愛知。

「近畿」＝三重，滋賀，京都，兵庫，奈良，和歌山，大阪。

「中国」＝鳥取，島根，岡山，広島，山口。

「四国」＝四国4県。

「九州」＝九州7県，沖縄。

(t) 「その他」には，外国（樺太など）や，曖昧な複数解答などが含まれる。

(n) インフォーマントが言語形成期（5歳から15歳までの期間）を最も長く過ごした地域。地名の表示法は，(m)と同じ。

(o) インフォーマントの父の出身地。地名の表示法は，(m)と同じ。

(p) インフォーマントの母の出身地。地名の表示法は，(m)と同じ。

(3) (d), (f), (h)の各語における鼻音・非鼻音の区別は，次のように表示。

●＝確かに鼻音。

▲＝どちらかといえば鼻音。

△＝どちらかといえば非鼻音。

○＝確かに非鼻音。

(4) 縦方向の配列は，(a)＝(g)の通し番号の若い方から順に，次のようなルールを①～③の順序でかけていった結果である。

① まず，(j)のB群全体の鼻音の合計点が多い順に配列。

② ①で同点のとき，(b)のインフォーマントの生年が早い順に配列。

③ ②で同点のとき，(l)のA群の鼻音の合計が多い順に配列。

したがって，概略，通し番号の若いインフォーマントの方が，鼻音をよく保持していて，記号の分布模様としては黒っぽい印象を与えることになる。



:ニ:又:ネ:/:ハ:B2: :点: :釘:学:具:A: : 出生地 : 形成期 : 父 : 母 :

1	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	胆振	胆振	富良野	宮城
2	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	岩手	岩手	岩手	岩手
3	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	網走	網走	無記入	無記入
4	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	その他	その他	無記入	北陸
5	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●○●●●●	2	秋田	秋田	秋田	秋田
6	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●○●●●●	2	根室	根室	福島	新潟
7	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●▲●●●●	3	福島	福島	宮城	福島
8	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●○▲●●●	2	根室	根室	青森	根室
9	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	富良野	富良野	四国	宮城
10	●●●●●▲●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	宗谷	宗谷	岩手	岩手
11	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	岩手	空知	岩手	岩手
12	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	その他	その他	山形	山形
13	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●▲●●●●	3	留明	留明	留明	留明
14	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	宮城	宮城	宮城	宮城
15	●●●●●●●●●●	17	26	○●●●●●●●●●	2	留明	留明	留明	網走
16	●●●●●●●●●●	17	26	○●●●●●●●●●	2	網走	網走	無記入	新潟
17	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	空知	空知	根室	根室
18	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	渡島	渡島	渡島	渡島
19	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	渡島	渡島	渡島	渡島
20	●●●●●●●●●●	17	26	●●●●●●●●●●	3	北関東	北関東	北関東	北関東
21	●●●▲●●●●●●	17	26	●●●○●●●●●●	1	十勝	十勝	山形	山形
22	●●●●●●●●●●	17	26	●●●▲●●●●●●	3	福島	福島	福島	福島
23	●●●●●●●●●●	17	26	○●●○●●●●●●	1	釧路	釧路	福島	福島
24	●●●●●●●●●●	17	25	●●●●●●●●●●	3	網走	網走	青森	青森
25	●▲●●●●●●●●	16	25	●●●●●○●●●●	2	富良野	富良野	福島	福島
26	●▲●●●●●●●●	17	25	○●▲●●●●●●●	1	富良野	富良野	北陸	北陸
27	●●●●●●●●●●	17	25	○●●○●●●●●●	1	富良野	富良野	近畿	近畿
28	●●●●●●●●●●	17	25	●●●●●○●●●●	2	空知	空知	近畿	空知
29	●●●●●●●●●●	17	25	●●●●●●●●●●	3	富良野	富良野	北陸	北陸
30	●●●●●●●●●●	17	25	●●●●●●●●●●	3	富良野	富良野	岩手	岩手
31	●●●●●●●●●●	17	25	●●●●●●●●●●	3	青森	青森	青森	青森
32	●●●●●●●●●●	17	25	●●●●●○●●●●	2	秋田	秋田	秋田	秋田
33	●●●●●●●●●●	17	25	●●●●●●●●●●	3	富良野	空知	北海道	秋田
34	●●●●●●●●●●	17	25	●●●●●○●●●●	2	富良野	富良野	宮城	青森
35	●▲●●●●●▲●●	17	25	○●○●○●●●●●	0	宮城	宮城	宮城	宮城
36	●●●●●●●▲●●	17	25	○●○●○●●●●●	1	空知	空知	空知	空知
37	●●●●●●●●●●	17	25	●●●●●●●●●●	3	青森	青森	青森	青森
38	●●●●●●●●●●	16	24	●●●○●●●●●●	1	空知	富良野	福島	福島
39	●▲●●●●●●●●	16	24	●●●▲●●●●●●	3	岩手	網走	岩手	岩手
40	●●●●●●●●●●	17	24	●●●●●○●●●●	2	富良野	南富良野	北陸	北陸
41	●●●●●●●●△●	16	24	○●○●○●●●●●	0	富良野	富良野	富良野	空知
42	●●●●●△●●●●	15	24	○●○●○●●●●●	0	富良野	富良野	山形	山形
43	●●●●●●●●●●	16	24	○●○△●●●●●●	0	十勝	十勝	北海道	無記入
44	●●●●●●●●●●	17	24	●●●○●●●●●●	1	十勝	十勝	北海道	上富良野
45	●●●●●●●●▲●	17	24	○●○●○●●●●●	0	富良野	富良野	富良野	美瑛
46	●●●▲●●●●●●	16	23	○●○●○●●●●●	0	富良野	富良野	網走	南富良野
47	●●●●●▲●▲●●	17	23	○●○●○●●●●●	0	後志	富良野	その他	富良野
48	●●●●●●●●●●	17	23	○●○●○●●●●●	1	富良野	富良野	福島	福島
49	△●●●●●●●●●	16	23	●●●●●●●●●●	3	北関東	北関東	北関東	南関東
50	▲△▲○△●●●	14	22	●●○●○●●●●●	1	富良野	富良野	岩手	上川

：生年：性： ：ア：イ：ウ：エ：オ：カ：キ：ク：ケ：Bi： ：コ：サ：シ：ス：セ：ソ：タ：チ：ツ：テ：ト：ナ：

51	3 5	男	●●▲●●●●●▲△	8	▲●●●▲●●●●●●●●●●△
52	3 5	女	●△▲●●○●▲●●●	7	●●●●●●●▲●●●●○●○
53	5 2	男	●●●●●●●●●△●●	8	●●●●●●●●●△○●●△
54	1 8	女	●●●●●○●●●●○●○	6	●●●●●●●●●●●●●●○
55	2 4	男	●●○●●●●●▲▲○●○	6	▲●●○▲●●●●●●●●●●
56	2 5	男	●●○●●●●●●●●○●○	5	●●●●●●●●●▲●●●●▲
57	2 7	女	●●●●●●●●●○●○●○	6	▲●●●●●●●●●●▲●○●●
58	2 9	女	●●○●○●●●●●●●●○●	5	●●▲●●●●●●●●●●●▲●●
59	3 0	男	●●○●●●●●●●●●△○●	6	●●●●△▲△▲●●●●●●●●
60	3 0	女	●●○●●●●●●●●●○●○	6	△▲●●●●▲●●●●●△●●▲
61	3 5	女	●●●●△▲△▲△▲○●	5	▲▲▲●●●●●●●●●●▲●●
62	5 2	女	●●○●●●●●●●○△●●	6	▲▲●●●●▲●●●●●●●●●●
63	2 5	男	△▲●▲▲▲▲▲▲▲△▲	6	▲▲●●●●▲▲▲▲△▲●●△▲
64	4 2	男	●●○●●●●●▲▲▲▲○●○	6	▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲○
65	4 6	女	●●●○●○●△●●○●●	5	●●●●●●●●●●●●●●●●●
66	4 8	男	●●▲●●●○●○●○●○●○	4	●●●●●●●●●●●●●○●●●
67	2 4	男	●●▲●●●●●●●▲△▲	6	●●△●●○●▲▲●●●●●●▲
68	3 2	男	▲○●▲▲●●●●●●○●○	6	○▲▲●●△●●●●●●●▲▲△
69	3 4	女	●●○●●▲●●●●●○●○	6	●●▲▲▲●●●●●●▲△▲△
70	3 7	男	●●○●●●●●●●●○●○	5	▲●●△▲○●○●●●●●●●●
71	2 7	男	●●●●●●●▲●○●○●○	6	●●●●●▲▲▲▲▲●●○▲●○
72	3 3	女	●●●●○●●○●○●○●○	4	●●●●●●●●●▲▲▲▲●●●
73	3 7	女	●●○●○▲●●●○●○●○	4	●●●●●●●▲▲▲▲▲▲▲▲
74	1 8	女	●●○●○●○●△▲△○●○	3	●●●●●●△▲▲●●●●●●●
75	1 8	女	●●○●○●○●○●○●○	4	▲▲●●△▲○●▲●●●●●●●
76	3 2	男	△▲▲●●○●○●△○●○	3	▲▲▲●●▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲
77	4 3	女	●●▲△▲●●○●○●●○●○	4	▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲△
78	4 7	女	●●▲△▲●●○●○●○▲	4	▲▲▲▲▲○▲△▲●●●●▲△
79	5 7	男	▲●●○●○●●●○●○●○	3	●●●●●●●●○▲▲△○●●●
80	2 2	男	▲●○●●▲●●▲△▲▲	6	▲▲●●▲▲▲▲△○●▲△▲
81	3 6	女	●●○●○●○●●▲●○●○	3	▲▲●●●●●●●●●○●○
82	4 3	女	●●○●○●○●○●○●○	1	○●●○●○●●●●●●●●▲
83	3 7	男	●●○▲●○●○●○▲○●	2	●●●○●○●▲▲●●▲▲▲
84	4 0	女	●●●▲●●○●○●○●▲	5	▲▲●●△▲△▲●●△▲▲○
85	1 9	男	●●○●●●●▲●●●○●	4	▲▲▲○●▲▲▲○●○●▲▲
86	3 0	男	●●○●●●●▲▲▲▲○	7	▲▲●●●▲▲△▲○●▲▲▲
87	3 0	男	●●○●●○●○●○●○●○	3	▲▲●●○▲▲▲▲▲○▲▲▲
88	3 4	男	●●○●○●○●○●○●○	3	▲▲▲●●○●○●○●▲▲○
89	3 7	女	○●○●○●○●○●○●○	0	●●▲▲▲▲▲●●●●●○●○
90	1 8	男	△▲△▲△▲●●▲▲○	4	△▲●○△▲▲▲▲△▲△▲
91	3 6	女	●●○●○●○△▲●○●○	2	▲▲●●●▲▲▲▲▲●●●○▲
92	4 9	男	●●○●○●○●○●○●○	3	●●●●▲▲○▲○▲○●○▲
93	2 1	男	▲▲▲▲▲○●○●○●○	3	▲▲●○▲▲△▲●●●○●▲
94	2 8	男	●●●▲●●○●○●○●○	3	▲▲●●●○▲▲●●●○▲▲
95	2 9	男	●●▲△▲○●○●○●○●○	3	▲▲●●●●●○●○●○▲▲
96	4 4	女	▲●●●▲●○●○●○●○	4	▲▲●●▲▲○●○●●○●○▲
97	5 0	男	●●▲▲△▲○●○●○●○	2	△▲▲▲△▲▲▲▲○●▲▲
98	3 7	女	▲▲▲●○●○●○●○●○	2	▲▲▲●●●●○●○●○●○
99	4 2	男	●●△▲○●○●○●○●○	3	▲▲△▲○△▲▲▲●▲○●○
100	4 4	女	▲○●○▲●○●○●○●○	2	○●●○●○▲▲▲▲▲▲▲▲

:ニ:又:ネ:ノ:ハ:B2: :点: :釘:学:具:A: : 出生地 : 形成期 : 父 : 母 :

51	○●●△●	14	22	○●▲	1	富良野	富良野	中部	北陸
52	●●▲▲	15	22	○●○	0	宮城	宮城	宮城	宮城
53	●●●●●	14	22	●●○	1	渡島	檜山	檜山	檜山
54	●○●●●	15	21	●●●	2	後志	中富良野	青森	青森
55	△●●●▲	15	21	○●○	0	上川	上川	四国	四国
56	○●●●●	16	21	○●○	0	上川	上川	北陸	北陸
57	●●●●●	15	21	●●○	2	福島	福島	福島	福島
58	○●●●▲	16	21	●●○	1	上川	留萌	宮城	留萌
59	●●●●●	15	21	●●●	2	富良野	富良野	富良野	富良野
60	▲●●●●	15	21	○●○	0	十勝	十勝	新潟	札幌
61	▲●●●▲	16	21	○●○	0	胆振	胆振	四国	四国
62	●●○●○	15	21	○●○●	1	富良野	富良野	上富良野	渡島
63	▲●●▲▲	14	20	●●○▲	2	富良野	富良野	岩手	北陸
64	○●●○●	14	20	○●○	0	釧路	富良野	富良野	富良野
65	●●●▲△	15	20	●●○	1	空知	空知	空知	空知
66	●●●●●	16	20	●●○	1	富良野	富良野	上川	富良野
67	●△●●●	13	19	●●○	1	中富良野	富良野	中部	中部
68	▲●●△	13	19	○●○	0	富良野	富良野	北陸	北陸
69	▲●●▲○	13	19	○●○▲	1	富良野	富良野	富良野	福島
70	▲●●▲●	14	19	●●○	1	富良野	富良野	南富良野	富良野
71	▲▲○△△	12	18	○●○	0	富良野	富良野	空知	空知
72	●●○●○	14	18	○●○	0	網走	網走	北海道	北海道
73	●●●○●	14	18	○●○	0	富良野	美瑛	南富良野	中富良野
74	○▲●●△	14	17	●●●	2	後志	富良野	後志	後志
75	●●●▲	13	17	○●○	0	十勝	十勝	四国	中部
76	▲●●△△	14	17	○●○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
77	●▲●○△	13	17	●●○	1	空知	空知	中部	秋田
78	●△●●○	12	16	○●○	0	富良野	富良野	胆振	北海道
79	●●●○●	13	16	○●○	0	空知	空知	北海道	空知
80	▲△△△	9	15	○●○	0	富良野	富良野	宮城	四国
81	○●●▲○	12	15	○●○	0	上富良野	富良野	北陸	上富良野
82	●●●●●	14	15	●●○	1	上川	上富良野	山形	山形
83	△▲○▲	12	14	○●○	0	富良野	富良野	青森	青森
84	●○●▲○	9	14	○●○	0	留萌	留萌	青森	青森
85	▲○●▲○	9	13	○●○	0	富良野	富良野	近畿	胆振
86	▲△○△△	6	13	●●○	2	空知	空知	中部	渡島
87	○△△△△	10	13	△▲○	1	富良野	富良野	中部	中部
88	●▲○●○	10	13	▲○●	2	富良野	富良野	青森	岩手
89	●●●●●	13	13	○●○	0	富良野	富良野	後志	後志
90	△▲●●△	8	12	○●○	0	富良野	富良野	中国	中部
91	○●○●○	10	12	○●○	0	空知	空知	北陸	無記入
92	●○●△○	9	12	●▲○	2	胆振	胆振	胆振	日高
93	○●▲○●	8	11	○●○	0	空知	富良野	空知	空知
94	▲▲○●○	8	11	○●○	0	上川	上川	山形	檜山
95	△○●○△	8	11	○●○	0	富良野	富良野	山形	山形
96	○●○●○	7	11	○●○	0	空知	空知	岩手	岩手
97	○●○●▲	9	11	●●○	1	宗谷	宗谷	南関東	留萌
98	○●●▲○	8	10	○●○	0	富良野	富良野	宮城	北陸
99	○△●○●	7	10	○●○	0	富良野	富良野	富良野	無記入
100	△●○●△	8	10	○●○	0	空知	空知	札幌	札幌

:生年:性: :ア:イ:ウ:エ:オ:カ:キ:ク:ケ:B1: :コ:サ:シ:ス:セ:ソ:タ:チ:ツ:テ:ト:ナ:

101	29	男	△	▲	△	○	△	○	○	○	○	○	1	▲	▲	●	▲	▲	△	○	○	△	△	▲	△
102	32	女	○	●	○	○	●	○	○	△	○	○	2	●	○	●	●	○	○	○	○	△	○	○	●
103	33	男	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	1	●	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	○
104	38	男	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	1	○	▲	▲	○	○	▲	▲	▲	○	○	▲	○
105	41	女	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	●	●	▲	○	▲	△	○	○	○	○	▲	○
106	43	女	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	●	2	▲	△	○	○	▲	○	○	▲	○	○	▲	○
107	45	女	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
108	48	女	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	2	▲	○	○	▲	▲	○	○	○	○	○	△	▲
109	49	女	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	○	○	▲	▲	○	○	○	○	▲	○	○
110	25	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	△	○	○	○	▲	▲	▲	▲	○	○	○	○
111	25	女	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	2	△	○	▲	○	○	▲	△	△	○	○	○	○
112	26	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3	△	○	▲	○	○	△	○	○	▲	▲	△	○
113	30	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	○	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○
114	33	女	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
115	37	女	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
116	39	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3	△	○	○	○	○	△	○	○	○	▲	△	○
117	56	男	▲	△	○	○	○	○	○	△	○	○	1	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
118	58	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲
119	24	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
120	25	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
121	31	男	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
122	32	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
123	35	男	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	2	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
124	38	女	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
125	43	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
126	51	男	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	2	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
127	51	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
128	62	女	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	2	▲	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○
129	24	女	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	2	△	○	▲	△	○	○	○	○	△	○	○	○
130	33	女	▲	○	○	○	△	○	○	○	○	○	1	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
131	43	女	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
132	47	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	△	▲	△	○	○	○	▲	▲
133	55	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	▲	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○
134	68	女	○	▲	○	▲	○	○	○	○	○	○	2	▲	▲	○	△	○	○	○	○	○	○	○	△
135	35	男	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
136	35	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	△	▲	▲	○	○	○	○	○	○	△	○
137	42	女	○	▲	○	△	○	○	○	○	○	○	2	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
138	46	女	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	▲	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○
139	48	男	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	○
140	48	女	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	0	▲	▲	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○
141	49	男	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	▲	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○
142	50	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	▲	▲	△	△	○	○	○	○
143	52	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	△	○	○	△	△	○	△	△
144	52	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲
145	54	男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	▲	▲	△	△	△	○	○	○	○	○	○
146	62	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	○	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○
147	68	男	○	○	▲	△	○	○	○	○	○	○	1	△	▲	○	△	○	○	○	○	○	○	△	▲
148	30	男	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	0	▲	▲	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○
149	32	男	○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	2	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
150	38	女	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	▲	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

:ニ:ヌ:ネ:ノ:ハ:B2: :点: :釘:学:具:A: : 出生地 : 形成期 : 父 : 母 :

101	▲	▲	○	○	△	8	9	○	○	○	0	南富良野	南富良野	上川	釧路
102	●	○	●	△	△	7	9	○	○	○	0	南富良野	南富良野	岩手	岩手
103	○	○	○	○	○	8	9	○	○	○	0	富良野	富良野	渡島	富良野
104	▲	▲	○	○	○	8	9	○	○	○	0	富良野	富良野	青森	無記入
105	○	●	○	○	▲	8	9	○	○	○	0	後志	後志	後志	後志
106	○	▲	▲	△	○	7	9	○	○	▲	1	富良野	富良野	北陸	富良野
107	●	○	○	○	△	6	9	○	○	○	0	宮城	宮城	宮城	宮城
108	▲	○	○	○	○	6	8	○	○	▲	1	空知	網走	上富良野	中富良野
109	○	○	○	○	○	7	8	○	○	○	0	胆振	胆振	空知	渡島
110	△	○	●	▲	●	6	7	●	○	○	1	青森	富良野	青森	青森
111	▲	○	○	○	○	5	7	○	○	○	0	南富良野	その他	新潟	新潟
112	△	▲	○	○	△	4	7	○	△	○	0	中富良野	中富良野	北陸	北陸
113	○	○	○	○	○	6	7	○	○	○	0	留萌	上川	四国	北陸
114	○	○	○	○	○	6	7	○	○	○	0	空知	富良野	北陸	空知
115	○	○	○	○	○	6	7	○	○	○	0	富良野	富良野	南富良野	富良野
116	○	○	○	○	○	4	7	○	○	▲	1	網走	網走	富良野	北海道
117	△	○	○	○	○	6	7	○	○	○	0	上川	上川	上川	上川
118	○	●	○	○	○	6	7	○	○	○	0	富良野	富良野	後志	富良野
119	○	○	○	○	○	4	6	●	○	○	1	富良野	富良野	四国	北陸
120	○	○	○	○	○	5	6	○	○	○	0	南富良野	南富良野	山形	空知
121	○	○	○	○	○	5	6	○	○	○	0	富良野	富良野	福島	空知
122	○	○	○	○	○	3	6	○	○	○	0	美瑛	美瑛	新潟	四国
123	○	○	○	○	○	4	6	○	○	○	0	富良野	富良野	北海道	近畿
124	○	○	○	○	○	5	6	○	○	○	0	富良野	富良野	無記入	北陸
125	○	○	○	○	○	4	6	○	○	○	0	その他	美瑛	青森	その他
126	○	○	○	○	○	4	6	○	▲	○	1	富良野	富良野	中富良野	十勝
127	○	○	○	○	○	4	6	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
128	○	○	○	○	○	4	6	○	○	○	0	南富良野	南富良野	青森	近畿
129	▲	○	○	○	○	3	5	○	○	○	0	上富良野	富良野	北陸	北陸
130	○	○	○	○	△	4	5	○	○	○	0	十勝	十勝	福島	宮城
131	○	○	○	△	○	3	5	●	○	○	1	南関東	空知	中部	石狩
132	○	△	○	○	○	3	5	○	△	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
133	○	○	○	○	○	3	5	○	○	○	0	空知	上川	四国	留萌
134	○	△	○	○	△	3	5	○	○	○	0	上川	富良野	富良野	その他
135	○	○	○	○	○	2	4	○	●	○	1	上川	上川	福島	北海道
136	○	○	○	○	○	3	4	○	○	○	0	近畿	網走	近畿	無記入
137	○	○	○	○	○	2	4	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
138	○	○	○	○	○	3	4	○	○	○	0	南富良野	南富良野	南富良野	南富良野
139	○	○	○	○	○	3	4	○	○	○	0	富良野	富良野	宮城	青森
140	○	△	○	○	○	4	4	○	○	○	0	留萌	留萌	留萌	南関東
141	○	○	○	○	○	3	4	○	○	○	0	富良野	富良野	宮城	富良野
142	○	○	○	○	○	3	4	○	○	○	0	富良野	富良野	中富良野	中富良野
143	○	○	○	○	○	2	4	○	○	○	0	南関東	近畿	南関東	南関東
144	○	○	○	○	○	3	4	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
145	△	○	○	○	○	3	4	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
146	○	○	○	○	○	3	4	▲	○	○	1	富良野	富良野	根室	空知
147	○	○	○	○	○	3	4	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
148	○	○	○	○	○	3	3	○	△	△	0	上川	富良野	北陸	富良野
149	○	○	○	○	○	1	3	○	○	○	0	札幌	空知	空知	空知
150	○	○	○	○	○	2	3	○	○	○	0	富良野	富良野	南富良野	南富良野



:ニ:又:ネ:ノ:ハ:B2: :点: :釘:学:具:A: : 出生地 : 形成期 : 父 : 母 :

151	○	○	○	○	○	2	3	○	○	○	0	南	関	東	南	関	東	中	部	中	部																
152	○	○	○	○	○	3	3	○	○	○	0	中	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野	空	知												
153	○	△	○	○	△	2	3	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野											
154	○	○	○	○	○	2	3	○	○	○	0	留	明		留	明	留	明	留	明	留	明	留	明	留	明											
155	○	○	○	○	○	2	3	○	○	○	0	中	富	良	野	富	良	野	無	記	入	秋	田	秋	田												
156	○	○	○	○	○	2	3	○	○	○	0	鉏	路		鉏	路	十	勝	十	勝	十	勝	秋	田													
157	○	○	○	○	○	2	3	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	空	知	空	知	空	知	富	良	野											
158	○	○	○	△	○	0	2	○	○	○	0	富	良	野	そ	の	他	中	国	中	国	中	国	中	国												
159	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	0	美	瑛		美	瑛	美	瑛	美	瑛	美	瑛	美	瑛	美	瑛											
160	○	○	○	○	○	1	2	○	○	○	0	空	知		空	知	空	知	空	知	空	知	空	知	空	知											
161	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	0	そ	の	他	そ	の	他	四	国	四	国	四	国	新	潟												
162	○	○	○	○	○	1	2	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	無	記	入	留	明	留	明	留	明											
163	○	△	○	○	○	1	2	○	○	○	0	空	知		空	知	四	国	四	国	四	国	四	国	四	国											
164	○	○	○	○	○	1	2	○	○	○	0	上	富	良	野	上	富	良	野	上	富	良	野	上	富	良	野										
165	○	○	○	○	○	1	2	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野									
166	○	○	○	○	○	1	2	○	○	▲	1	富	良	野	富	良	野	四	国	四	国	四	国	四	国	四	国										
167	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	青	森	青	森	中	富	良	野	中	富	良	野								
168	○	○	△	○	○	1	2	○	○	○	0	中	富	良	野	富	良	野	網	走	網	走	中	富	良	野	中	富	良	野							
169	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	0	鉏	路		鉏	路	北	海	道	北	海	道	北	海	道	北	海	道									
170	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野								
171	○	○	○	○	○	1	2	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	無	記	入	無	記	入								
172	○	○	○	○	○	1	2	○	○	○	0	宗	谷		富	良	野	富	良	野	無	記	入	無	記	入	無	記	入								
173	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	0	空	知		鉏	路	十	勝	十	勝	空	知	空	知	空	知	空	知									
174	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	0	中	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野	空	知	空	知	空	知								
175	○	○	○	○	○	1	2	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	空	知	空	知	空	知	空	知	空	知							
176	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	上	富	良	野	上	富	良	野	上	富	良	野					
177	○	○	○	○	○	1	2	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野					
178	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	中	富	良	野	中	富	良	野	北	陸	北	陸	北	陸	北	陸	北	陸	北	陸	北	陸				
179	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿				
180	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	中	富	良	野	中	富	良	野	富	良	野	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野				
181	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿	近	畿				
182	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	秋	田	秋	田	秋	田	秋	田	秋	田	秋	田	秋	田	秋	田				
183	○	○	○	○	○	0	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	四	国	四	国	南	関	東	南	関	東	南	関	東	南	関	東				
184	○	○	○	○	○	0	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	福	島	福	島	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野				
185	○	○	○	○	○	0	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川				
186	○	○	○	○	○	0	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川				
187	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	十	勝	十	勝	十	勝	十	勝	十	勝				
188	○	○	○	○	○	0	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	上	富	良	野	上	富	良	野	上	富	良	野		
189	○	○	○	○	○	0	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	無	記	入	美	瑛	美	瑛	美	瑛	美	瑛	美	瑛	美	瑛	美	瑛			
190	○	○	○	○	○	0	1	○	○	○	0	網	走		鉏	路	渡	島	網	走	網	走	網	走	網	走	網	走	網	走	網	走	網	走			
191	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野
192	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	札	幌		上	川	札	幌	札	幌	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川			
193	○	○	○	○	○	1	1	○	△	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野		
194	○	○	○	○	○	0	1	○	○	○	0	上	川		上	川	留	明	留	明	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川	上	川			
195	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	榎	山	榎	山	榎	山	榎	山	榎	山	榎	山		
196	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	空	知		富	良	野	そ	の	他	空	知	空	知	空	知	空	知	空	知	空	知	空	知			
197	○	○	○	○	○	1	1	○	○	△	0	富	良	野	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野	中	富	良	野
198	○	○	○	○	○	0	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	美	瑛	美	瑛	南	富	良	野	南	富	良	野	南	富	良	野	南	富	良	野
199	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	富	良	野	富	良	野	富	良	野	富	良	野	南	富	良	野	南	富	良	野	南	富	良	野		
200	○	○	△	○	○	0	1	○	○	△	0	富	良	野	富	良	野	無	記	入	無	記	入	無	記	入	無	記	入	無	記	入	無	記	入		



:ニ:ヌ:ネ:ノ:ハ:B2: :点: :釘:学:具:A: : 出生地 : 形成期 : 父 : 母 :

201	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	0	富良野	富良野	南富良野	南富良野
202	○	○	△	○	○	0	0	△	○	○	0	富良野	富良野	新潟	新潟
203	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	空知	空知	四国	四国
204	○	○	○	○	○	0	0	▲	△	▲	2	富良野	富良野	中部	中部
205	○	○	○	○	○	0	0	△	○	○	0	富良野	富良野	北陸	四国
206	○	○	○	○	○	0	0	○	○	△	0	富良野	富良野	北陸	無記入
207	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	北陸	北陸
208	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	近畿	後志
209	○	○	△	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	四国	富良野
210	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	上川	上川	九州	山形
211	○	○	○	○	○	0	0	○	△	○	0	南関東	富良野	九州	南関東
212	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	四国	近畿	四国	四国
213	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	中国	十勝
214	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	中部	胆振
215	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
216	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	中富良野	中富良野	青森	青森
217	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	十勝	富良野	福島	十勝
218	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	胆振	富良野	宮城	宮城
219	○	○	○	○	○	0	0	△	△	○	0	南富良野	南富良野	宮城	宮城
220	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	釧路	富良野	南関東	十勝
221	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	新潟	上川
222	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	上川	富良野
223	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	青森	富良野
224	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	宗谷	上川	宗谷	札幌
225	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
226	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	空知	南富良野
227	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	美瑛	美瑛	上富良野	上富良野
228	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	中国	無記入
229	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	南富良野	南富良野	福島	北海道
230	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	新潟	新潟
231	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	新潟	新潟	新潟	新潟
232	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	中富良野	中富良野	富良野	中富良野
233	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	青森	青森
234	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	九州	南関東	中部	九州
235	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	美瑛	富良野
236	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	後志	網走
237	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	中富良野
238	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	美瑛	南富良野	秋田	無記入
239	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
240	○	○	△	○	○	0	0	○	○	○	0	中富良野	中富良野	中富良野	山形
241	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	上川	上川	後志	上川
242	○	○	○	○	○	0	0	○	○	▲	1	上川	上川	上川	後志
243	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	青森	青森
244	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	空知	上富良野	美瑛	上富良野
245	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	空知	空知	空知	空知
246	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	北陸	上富良野
247	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	無記入	無記入
248	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
249	○	○	○	○	○	0	0	○	○	▲	1	網走	網走	網走	十勝
250	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	北陸	福島



:ニ:又:ネ:ノ:ハ:B2: :点: :釘:学:具:A: : 出生地 : 形成期 : 父 : 母 :

251	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
252	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	上富良野	上川
253	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	網走
254	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	空知
255	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	中富良野
256	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	上川	上川	空知	北海道
257	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	南富良野	南富良野	南富良野	富良野
258	○	○	△	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	中富良野	富良野
259	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	中富良野
260	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	南富良野	南富良野
261	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	中富良野	南富良野
262	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	網走
263	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	空知	富良野	空知	富良野
264	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	南富良野	富良野	空知	空知
265	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	上川	富良野
266	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	中富良野
267	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
268	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	上川	上富良野
269	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	中富良野
270	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
271	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
272	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
273	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
274	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	空知	十勝
275	○	○	△	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
276	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	美瑛	富良野	美瑛	無記入
277	○	○	○	△	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	富良野
278	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	上富良野	十勝
279	○	○	△	○	○	0	0	△	○	○	0	上富良野	富良野	無記入	近畿
280	○	○	○	○	○	0	0	△	△	○	0	富良野	富良野	富良野	近畿
281	○	○	○	○	○	0	0	○	○	△	0	胆振	富良野	富良野	富良野
282	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	十勝	富良野	美瑛	無記入
283	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	中富良野
284	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	上川	上川
285	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	富良野	上川
286	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	南関東	富良野	空知	南関東
287	○	○	○	○	○	0	0	○	○	○	0	富良野	富良野	無記入	無記入